

## ◆集团的自衛権行使容認に対する真宗大谷派の反対声明とコメント

### 安倍晋三内閣による集团的自衛権行使容認に対する反対声明

安倍晋三内閣総理大臣は、このたび、十分な国民的議論もないまま、集团的自衛権行使容認を閣議決定されました。これは、防衛の名のもとに、戦争の可能性を開くものであり、このような改憲に等しい重大事が、恣意的な解釈変更によって決定されたことに、強く反対の意を表明します。

私たちは、「日本国憲法」を、悲惨な戦争を背景に生まれた、非戦に向けた日本国民の誓いであるとともに、国際社会に恒久平和を呼びかける願いの象徴であると受けとめています。集团的自衛権行使容認は、戦争放棄を誓い、願い続けてきた日本国の姿勢を大きく変更するものであり、決して容認することはできません。

安倍内閣総理大臣におかれては、仏陀（覚者）の金言、「殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」（『法句経』）という言葉に耳をかたむけ、熟慮いただき、今回の閣議決定を即時撤回されるよう強く求めます。

2014年7月1日

真宗大谷派 宗務総長 里雄康意

今回、安倍晋三内閣は、集团的自衛権行使容認を閣議決定しました。この重大問題を抱える「現代」に生きる私たちは、今こそ仏法僧の三宝に帰依する「仏教徒」として、この問題から目をそらすことなく、正見によって的確に受けとめ、言動する使命と責任があるのではないかと思います。

仏教では、「国豊民安兵戈無用」という教言に象徴されるとおり、仏の教えが生きてはたらくところこそ、ほんとうに豊かで、戦争の無い世界が開かれると教えられます。それは、『仏説無量寿経』において教示される如来の本願に、どこまでも照らし出され、呼びかけられ続ける「われら」の問題であり、この私たちに、真に「われら」といえる世界が如何に成り立つのかという課題であります。

親鸞聖人が顕かにされた浄土真宗の教えは、自己関心に執着してみずからの愚かさに気づくことのできない私たちに、如来の本願に基づいて、人と生まれた意義を教え、丁寧な人間関係を開いてくださるものです。自らの正義に酔いしれ人間の関係と存在そのものを破壊する戦争をも正義の名の下に容認する。このような自分を善とし他を悪とする愚かな在り方に、目覚めなければならぬと教えてくださるものこそ、南無阿弥陀仏であります。

こんにちの日本政府の判断はまさしく国民の危機であり、私たち一人ひとりが、みずからの課題として受けとめるべきものです。この問題のなかにこそ、私たちは、自他一如を説く仏の教えを聞き開かなければなりません。あらためて、一人ひとりが、今、浄土から、どのように呼びかけられているのか。何を教えられ、うながされているのかを、それぞれの生活の現場で語り合い、共に「同朋社会の顕現」に尽くしてまいりたく存じます。

2014年7月1日

真宗大谷派 宗務総長 里雄康意

## ◆ 集団的自衛権、全日本仏教会理事長が「憂慮」の談話

2014年7月1日 18時31分 朝日新聞】 集団的自衛権をめぐる閣議決定を受け、伝統仏教界の連合組織である全日本仏教会は1日、齋藤明聖理事長名で「深い憂慮」を表明する談話を出した。

談話は「(集団的自衛権が) 実行されれば、日本人が国外で人を殺し殺されるという事態が起こり得る可能性があり、日本国憲法に示される戦争放棄を捨て去ることになりかねません」としたうえで、今回の決定には「人間の知恵の『闇』を垣間見るがごとき、深い憂慮と危惧の念を禁じ得ません」と述べている。



### 「戦争をさせない1000人委員会・まつもと」発足総会のご案内

- ◆ 8月9日(土) 13時開会
- ◆ 長野県松本勤労者福祉センター第7会議室  
松本市中央4-7-26 TEL:0263-35-6286
- ◆ 呼びかけ人トーク/活動方針/意見交換など
- ◆ 記念講演 「日本は戦争をするのか」 東京新聞・中日新聞編集委員  
半田 滋さん
- ◆ 参加費無料



戦争をさせない1000人委員会・まつもと(仮称)準備会